

よりよい環境のために、エコドライブしよう!

エコドライブ
10
のすすめ

私たちにとってクルマは無くてはならないもの。生活のために欠かせない大切な仲間でもあります。

私たちが環境に配慮するためにはドライブの際、どういふことに気をつけたら良いのでしょうか。

日本自動車工業会では環境に優しいドライブのコツを皆様にわかりやすく10項目にしてご提案いたします。

より良い環境のためにドライバーの皆様、どうぞお役立てください。



ふんわりアクセル「eスタート」で温暖化防止

チーム・マイナス6%

<http://www.jama.or.jp>

JAMA

社団法人 日本自動車工業会

よりよい環境のために、エコドライブしよう!

エコドライブ 10 のすすめ



1 ふんわりアクセル「eスタート」 やさしい発進を心がけましょう。



普通の発進より少し緩やかに発進する(最初の5秒で時速20キロが目安です)だけで11%程度燃費が改善します。やさしいアクセル操作は安全運転にもつながります。時間に余裕を持って、ゆったりした気分運転しましょう。

2 加減速の少ない運転



車間距離に余裕をもって、交通状況に応じた安全な定速走行に努めましょう。車間距離に余裕をもつことが大切です。車間距離を詰めたり、速度にムラのある走り方をすると、加減速の機会も多くなり、その分市街地で2%程度、郊外で6%程度燃費が悪化します。また、同じ速度であれば、高めのギアで走行の方が燃費がよくなります。交通の状況に応じ、できるだけ速度変化の少ない安全な運転をしましょう。

3 早めのアクセルオフ



エンジンブレーキを積極的に使いましょう。エンジンブレーキを使うと、燃料の供給が停止される(燃料カット)ので、2%程度燃費が改善されます。停止位置が分かったら、早めにアクセルから足を離して、エンジンブレーキで減速しましょう。また減速したり、坂道を下る時にはエンジンブレーキを活用しましょう。

4 エアコンの使用を控えめに 車内を冷やし過ぎないようにしましょう。



気象条件に応じて、こまめに温度・風量の調整を行いましょう。特に夏場に設定温度を下げすぎないことがポイントです。外気温25℃の時に、エアコンを使用すると、12%程度燃費が悪化します。

5 アイドリングストップ



無用なアイドリングをやめましょう。※注
10分間のアイドリング(ニュートラルレンジ、エアコンOFFの場合)で、130cc程度の燃料を浪費します。待ち合わせや荷物の積み下ろしのための駐停車の際にはアイドリングを止めましょう。(一部の都道府県では条例化されています)

6 暖機運転は適切に



エンジンをかけたらすぐ出発しましょう。現在販売されているガソリン乗用車においては暖機不要です。寒冷地など特別な状況を除き、走りながら暖めるウォームアップ走行で充分です。暖機することにより走行時の燃費は改善しますが、5分間暖機すると160cc程度の燃料を浪費しますので、全体の燃料消費量は増加します。

7 道路交通情報の活用



出かける前に計画・準備をして、渋滞や道路障害等の情報をチェックしましょう。1時間のドライブで、道に迷って10分余計に走行すると14%程度の燃費悪化に相当します。地図やカーナビ等を利用して、行き先及び走行ルートをあらかじめ計画・準備をしましょう。また道路交通情報をチェックして渋滞を避ければ燃料と時間の節約になります。カーナビやカーラジオ等で道路交通情報をチェックして活用しましょう。

8 タイヤの空気圧をこまめにチェック



タイヤの空気圧を適正に保つなど、確実な点検・整備を実施しましょう。タイヤの空気圧が適正値より50kPa(0.5kg/cm²)不足した場合、市街地で2%程度、郊外で4%程度、それぞれ燃費が悪化します。また、安全運転のためにも定期的な点検は必要です。

9 不要な荷物は積まずに走行



不要な荷物を積まないようにしましょう。100kgの不要な荷物を載せて走ると、3%程度燃費が悪化します。車の燃費は荷物の重さに敏感です。運ぶ必要のない荷物は、車から下ろしましょう。

10 駐車場所に注意



渋滞などをまねくことから、違法駐車はやめましょう。交通の妨げになる場所での駐車は交通渋滞をもたらす余分な排出ガスを出させる原因となります。平均車速が時速40kmから時速20kmに落ちると、31%程度の燃費悪化に相当すると言われています。

※注 駐停車時以外の(特に交差点での)アイドリングストップは、以下のような状況が発生する可能性が考えられ、十分注意する必要があります。
 ◎エアバッグ等の安全装置が機能しないので先頭車乗付道ではアイドリングストップをしない。◎気温ではアイドリングストップをしない。◎アイドリングストップ中に何度のブレーキを踏むとブレーキが効きにくくなります。◎慣れないと発進時や発進が遅れることがあります。◎バックリール上がりにエンジンが再始動しない場合があります。◎精進に行くと部品寿命(スターター、バッテリー等)が低下します。◎方向指示器、ワイパーが作動しません。◎電子機器の始動に負荷がかかります。

